



益々動き出した市民協働

シビックエンゲージメントセンター センター長
飯島 泰裕

紀要『シビックエンゲージメント研究』も第2号を刊行することとなりました。2016年に生まれたボランティアセンターは、ボランティア活動を通じて、豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成する目的で設立され、2022年には青山学院大学シビックエンゲージメントセンターに改組され、ボランティアに留まらず、シビックエンゲージメント（市民協働）へ活動の範囲を広げて広く社会貢献し、それを教育にも活かしております。

2023年度は、コロナ禍も一段落し徐々にその活動の機会も広がってきました。街中清掃 Green Up Project、手話コミュニケーション講座、オンライン日本語サロン、渋谷区版こども食堂「こどもテーブル」、相模原地域小中学校等連携事業、広尾中学校アフタースクールボランティア、落書き対策プロジェクト、大規模災害時に渋谷の災害を軽減する「もしもプロジェクト青学」、カンボジア日本語サロン、多様性や共生社会実現に向けた彩プロジェクト、ヒューマンライブラリー、国際協力プランナー入門、認知症サポーター養成講座、防災ボランティア講習、こどもの居場所づくりセミナー、ユニバーサルマナー検定取得支援などを実施しております。また、2024年1月1日に能登半島地震が起き、募金活動やボランティア派遣も行なっています。

この他、狭い意味でのボランティアから地域活性化と活動の幅を広げ、自然体験プログラム、相武台団地活性化プロジェクト、相模原市中央区「わかば」プロジェクトなども実施しております。困っている人たちの助け隊としてのボランティアから一歩進み、自然に触れることが少なくなった学生や我々が、里山再生活動を通して、自分ごととして、これからの自然や社会を考えていく活動で、相模原藤野地区と多摩市ななやま緑地で行っています。また、高度経済成長期に発展した相模原市相武台団地ですが、時代を経て、高齢者世帯の多く、衰退の様相を呈す地域となっております。認知症サポーターとして始めた活動ですが、明るい青学生が寄り添い、みんなでお菓子を作り、キーホルダーを作ることで、高齢者だけでなく、小学生を含む若い地域の皆さんを取り込んだ、地域の元気を取り戻す活動に広がっています。「わかば」プロジェクトは、相模原市中央区の魅力を発見し、発掘し、発信するという相模原市役所と協働で進めたプロジェクトです。インスタグラムで発信したり、魅力体験ツアーをしたりしましたが、相模原で葡萄を栽培しワイン製造している地元企業と協働して、収穫製造の体験だけでなく、新製品のスパークリングワインのラベル開発をしました。出来た製品は、1ヶ月を待たず完売となり、相模原の魅力とものづくりの面白さを実感したことと思います。

さらに、ソーシャルビジネスとして、金沢 Outsider Art Project（障害者のデザインセンスを活かした自立支援）、シブヤフォント、相模原市藤野地区地産ガチャの活動も行っています。青学生の普段見せないアートセンスや、流行に敏感なセンスの良さに、驚かされました。

こうした活動の他に、青山スタンダード科目「ボランティア・市民協働論」も実施しました。シビックエンゲージメントセンターの活動を学問的に見つめ直し、多くの学生に市民協働やボランティアの知識を得てもらうための活動です。また、市民協働やボランティアの体験を人生に役立つ体や心で学ぶ学習として、「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」、「サービス・ラーニングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」について実施協力を行っています。より多くの青学生に、ボランティア活動を知ってもらい、社会への貢献を考えてもらう教育です。こうした知識や体験の上に、専門科目で学ぶ知識や技能、研究が加われば、素晴らしい成果が期待できますし、社会へ出ても大きなキャリアとなるでしょう。

社会へ出た後の皆様からも協力を得られました。いわゆる校友の皆様ですが、そのボランティア活動や国際貢献事業について、ざっくばらんに参加できるボラカフェで講演頂きました。学生にとっては体験したことのない世界の話を聞き、心に何か響いていると感じています。

ボランティアセンター時代からセンターを支えてくださった、佐藤コーディネーター、島崎コーディネーターは、新たな道に歩み出されます。これからも益々のご活躍をお祈りしております。また、後任の方も2024年4月より着任されます。大変業績豊かな方々で、本センターでのご活躍も期待しております。

最後に、2020年に拝命したセンター長職ですが、2024年3月をもって退任致します。シビックエンゲージメントの活動を、真に支え実施してくれたコーディネーターの皆様、学外から色々と協力してくれた行政、企業、団体の皆様、そして諸先輩となる校友の皆様、深く感謝して御礼申し上げます。

市民協働の活動は、まさに「地の塩、世の光」への道です。2024年度から新センター長のもと、益々の発展をお祈りしております。皆様におかれましては、今後を見守ると同時にご支援ご協力を切にお願いいたします。



紀要『シビックエンゲージメント研究』 第2号の刊行に寄せて

シビックエンゲージメントセンター 副センター長
左近 豊

2024年の初日に能登半島を襲った地震によって、多くの家族の団欒が引き裂かれ、住み慣れた故郷を追われ、寄る辺なさに打ちのめされた方たちの悲しみを想像し、思いを寄せています。シビックエンゲージメントセンターでは、地震発生後、スタッフが迅速に情報収集にあたり、物資の支援、ボランティアの派遣、支援金の募金に向けて準備に取り掛かりました。刻一刻と変わる状況に柔軟に対応しながら、まず全学で取り組めることとして、支援金の募金を、冬休み明けからすぐに宗教センターと一緒に始めました。ガウチャー記念礼拝堂、ウェスレー・チャペル、それぞれのセンター事務室、青学購買会を通じて構内セブンイレブンなどに募金箱を設置し、教授会等でも呼びかけました。3月には学生ボランティアが2回に分けて現地に派遣されました。これらの活動の陰には、たくさんの祈りと、「右の手のしていることを左の手に知らせない」（聖書・マタイによる福音書6：3）学内外の多くの方たちの尽力と支えがあったことを覚えます。感謝いたします。

昨年の創刊に続く今回の紀要には、シビックエンゲージメントセンターに連なる方々のボランティア活動や市民協働、地域連携等に関わる学術的な研究、そして実践の報告が載せられています。多様な働きの数々が、執筆者らの経験と知識と知恵に裏打ちされて、センターの活動に豊かな彩りをもたらしていることに気づかせられます。紀要を通して、青山学院大学に蒔かれた種が大きく実を結ぶのを遥かに望み見ながら、芽生え育ちゆく姿を確認し、与えられている恵みを数えることができる幸いを味わっています。

この紀要に原稿を寄せてくださった方々、査読にあたった先生方、そして編集の労をとられた皆様に感謝を申し上げます。

青山学院大学シビックエンゲージメントセンターについて

青山学院大学シビックエンゲージメントセンターは2022年4月に開設しました。

青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人物、サーバント・リーダーの育成に向け策定された AOYAMA VISION に基づき、前進であるボランティアセンターを改組した組織です。

2011年の東日本大震災以降、青学生が主体的に展開してきたボランティア活動を発展させつつ正課との接続を強化させ、サーバント・リーダーシップ教育に取り組みます。

■設 立 2022年4月設立（2016年に設立したボランティアセンターより改組）

■所在地 青山学院大学青山キャンパス 1号館 1階
青山学院大学相模原キャンパス F棟 2階

■センターの特色

「地の塩、世の光」となり地域社会や国際社会に貢献する
「知（学問）の力」「若い（学生）力」「スマート（サーバントリーダー）な力」を活用する
社会のニーズにあったボランティア活動を組織的に展開する

■センターミッション

- ①大学と社会の繋がりをつくる
学生・教職員の自発的な社会貢献活動への参画を促進すること
- ②より良い社会をつくっていく
大学の持つ専門性や強みを活用してボランティアや市民協働活動の社会的効果を向上すること
- ③社会から学び、自分の力へ
社会貢献活動への参加に伴う教育的効果を向上させること



【センター外観 青山（左）、相模原（右）】

コーディネーター挨拶

青山キャンパス

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、キャンパス内には賑わいが戻り学生たちの輝かしい笑顔に包まれた一年でした。一方で学生たちの学生生活の過ごし方には変化が生じ、ボランティアプログラムの成果が期待通り得られないことも多々ありました。人と人、人と社会の関係性のあり方が変容していく中で、これからも学生と地域の繋がりを丁寧に紡いでいけるセンターであり続けられるよう、これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

佐藤 亜希

コロナ禍を経た今、様々な活動の実施形態として、対面かリモートか、あるいは両方の形式をうまく組み合わせることが増えてきました。活動の目的や関係者の状況に応じた取組を通して、より柔軟な協働が生まれたように感じます。同時に、変化が多い状況のなかで、学生の活動受け入れ先となる団体や担当者との真摯なコミュニケーションを通じた信頼性や継続性に基づくパートナーシップの構築が、実践の質に影響することも実感させられる1年でした。今後も、学生とともに、地域に学び成長していくことのできるセンターを目指して参ります。

秋元 みどり

今年度は全面的に地域での活動を（自主的な感染対策を前提に）制限なく開催することができました。夏の草むしり隊ボランティアでは学生が地域の方と交流し、笑顔を共にする姿がありました。コロナ禍以前であれば日常の光景かもしれませんが、あらためてボランティアから生まれる個々人の出会いや感動があることへの気付き直しと、市民協働の在り方が形成されていくのを実感した1年でした。今後もCECが地域と学生との架け橋となれるよう、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

島崎 由宇

相模原キャンパス

シビックエンゲージメントセンターが開設して2回目の刊行となりました。本センターの機能を認知してもらいながら、これまでボランティアセンターで実施してきたプログラムを「市民協働プロジェクト」と称して発展させてきました。今後も大学の社会貢献の一端を担う部署として地域と大学をつなぎ、皆様にとって馴染みのあるセンターとなるよう尽力してまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

三神 憲一

この1年間は相模原市中央区魅力発掘・創造・発信プロジェクトや相模原地域小中学校等連携事業など、新たな企画を立ち上げ運営してきました。私自身相模原の魅力や地域性についてはまだまだ知らないことばかりですが、活動のコーディネートを通して、また学生たちと一緒に活動をしていく中で相模原地域の事を知り、これまでより身近に感じる事ができた1年でした。今後も学生の学びや成長をサポートしながら、地域に愛される青山学院大学であり続けられるよう、尽力してまいります。

水谷 耕平

学生スタッフ

シビックエンゲージメントセンターでは、センターが掲げるミッション実現に向けて、コーディネーターと共に青学生のボランティア活動や社会貢献活動を促進し、学生と地域をつなぐ役割を担う学生スタッフ制度を設けています。

学生スタッフとしての活動を通して、ボランティアや社会貢献活動に関する視野を拡げ、さまざまな地域や団体との連携から社会について学び、CEC と共に青学生の社会貢献力を高めたい！そんな強い意志と行動力をもつ学生たちが活動しています。

主な活動

- ・センター主催事業の企画や運営
- ・本学学生に向けたボランティア活動や市民協働活動の啓発や促進・情報発信
- ・その他、センターが必要とする活動の補佐業務

青山キャンパス

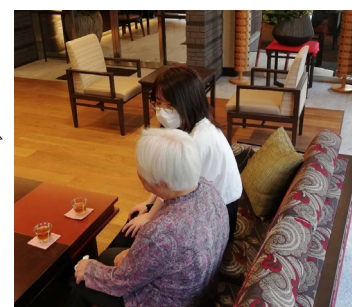
6人（4年生4人、3年生1人、1年生1人）

相模原キャンパス

4人（4年生2人、2年生1人、1年生1人）

学生スタッフの声

今年度、学生スタッフは渋谷区笹塚地域における「まちのお手伝いマネジャー」への参加と、SNS 発信を行いました。「まちのお手伝いマネジャー」では、地域にある課題やそこでボランティアすることの意義を身をもって体感することが出来ました。ほんの少しのお手伝いでも、必要としている場所があると痛感し、自分たち学生に出来ることはたくさんあると気付かされました。SNS の発信では、シビックエンゲージメントセンターの認知度を上げるために、シビックエンゲージメントセンターの概要や、イベントの広報などを行いました。また、ミーティングでは、個々の活動についても共有し、それぞれの学生スタッフが自分ごととして捉えることで学びとなりました。学生スタッフとして至らない点も多くありましたが、私たちの活動に興味を持ってくださったり、協力してくださった方々に感謝いたします。



青山キャンパス学生スタッフ
文学部日本文学科4年
福井 咲希



相模原キャンパス学生スタッフ
コミュニティ人間科学部
コミュニティ人間科学科4年
小泉 彩乃

今年度は、学生スタッフ2年目の活動として青学生のボランティア活動の広報や外部研修への参加、学生同士の交流企画を実施しました。特にボランティア広報誌「CEC TIMES」の作成においては、自分も含め学生がボランティア活動を通じて感じたものをリアルに言語化することで、活動を振り返り次へと繋げていく機会を作ることができたと思います。前例のない中で、様々な人と協力して一つの形を作り上げていく作業はやりがいがあり、活動を通じて様々な出会いや経験を得ることができました。温かく見守り適切なサポートを提供してくださったコーディネーター・事務職員の方々、活動を通じて出会うことのできた素敵な学生メンバーにはとても感謝しています。